

太郎医師は恩納産業組合の設立・運営に、新嘉喜倫元医師は1928年の恩納ナビの歌碑建立に尽力されたそうです。

1936（昭和11）年に赴任した金城精一医師の時に、村が現在の役場の敷地に診療所と医師住宅を建てました。娘さんの手記によると、金城医師は自転車で名嘉真、喜瀬武原から宇加地まで往診をし、診療所には遠方から荷馬車で訪れる患者もいたといいます。当時の當山正堅村長が雨の日に自転車で走行中に、富着の海岸で転倒してしまい、腰を強打して腸管麻痺を起こした際にも、金城医師と名護から駆け付けた幸地医師によって回復したそうです。沖縄戦がはじまり、空襲が激しくなると、金城医師のもとには負傷兵も運ばれました。米軍上陸後は村民と恩納岳



1960年頃の恩納診療所



1992年の恩納診療所

山中へ避難しながらも治療を続け、金城医師は戦後も沖縄の医療に貢献されました。

戦後の医療について『石川市史』をみてみますと、石川収容所では米軍からの命令で医療が始まったようです。時々、仲泊や前兼久方面に無料診療に行き、診療のお礼に野菜やイモなどをもらって帰ったと記されています。

各地の収容所から村民が戻ってきて間もなく、石川地区病院から恩納と仲泊に医師が派遣されることとなり、恩納には渡口精一医師が赴任されました。戦前の診療所は戦争で焼失したため、戦前の役場後（恩納番所跡）に診療所が開設されました。

その後、何名もの医師が恩納村に赴任しましたが、2006年に恩納村総合福祉センターの隣に恩納村診療所「恩納クリニック」が新設、開業して、現在に至っています。（幸喜）

参考文献・参考史料

- 国頭郡教育部会1919『沖繩県国頭郡志』（再版 沖繩出版会）
- 当山正堅先生伝記編集会1959『當山正堅伝』
当山正堅先生頌徳碑建設委員会
- 仲松弥秀1980『恩納村誌』恩納村役場
- 恩納字誌編集発行事業スタッフ2007『恩納字誌』字恩納自治会
- 恩納字誌編集委員会2003
- 『写真集 道 写真で見る恩納区のあゆみ』字恩納自治会